

雷電ドーム壁の開拓 2017/2/25

高橋岳、板橋輝海



前回2ルンゼ源頭部の探索に行った際、右岸側のドーム(写真矢印)が目をつけた。今回はそれを登りに行って来た。

アプローチは2ルンゼ。1p目は私。アイスが始めた頃に怪我をした、思い出の氷柱状から登りだす。私は氷を登ると猛烈にキジ撃ちをしたくなるのが度々あり、真剣に悩んでいる。いつぞやの上ホロでは、最終ピッチで山頂に着いた後、一目散にハーネスを脱ぎ姿をくらまして迷惑をおかけした事がある。この日も例外に漏れ

ず、ビレイ点のテラスにつくやいなや、絶景を尻目に山への恩がえし。板橋さんが不審げに下から様子を伺っている。私はこうした時もメインロープで体を縛り、必ず自己確保をするようにしている。このような事態におけるロープワークは誰も教えてくれない。次回のセルフレスキュー訓練で検討した方が良いのではなかろうか。F2を登り終えると、1時間程のラッセルで、お目当ての壁が右岸に現れる。ここまで雪崩には注意が必要だ。岩壁手前の猛烈な急斜藪漕ぎを30分程経て、ようやく基部に辿り着く。幾つかのラインを偵察。一番岩がしっかりしていそうな凹角から登り出す。

1p: 高橋。岩は案外しっかりしておりアックスを駆使して快調に登る。途中からスラブ状になり、約1.5m張り出したルーフ核心を悪い草付きのフッキングで越える。(5級?) 草付きから中間雪田に這い上がって立木でビレー。プロテクションは小さめのカム類とベッカー、イボイボ数本。(30m)

2p: 板橋氏。快適な岩質は終わり、上部岩塊は礫を押し固めたような礫岩である。Bushと草付きにイボでプロテクションを取りながら山頂に抜ける。25m。





1p 目

既に誰か登っているのかも知れないし、登っていないかもしれない。そんな場所でいいかもしれない。

文責 高橋 岳

